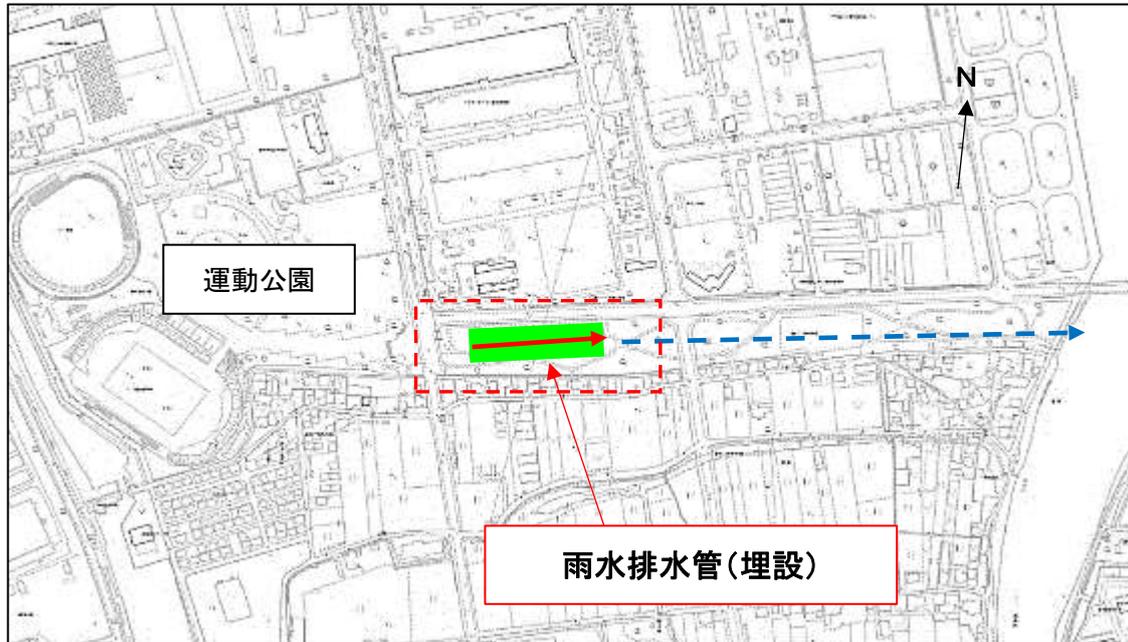
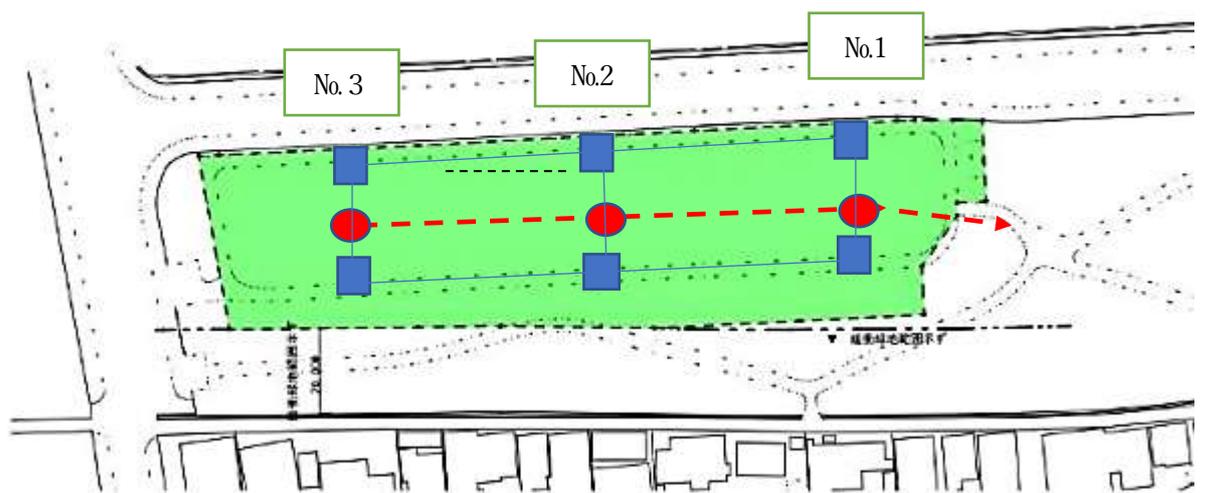


資料2 既存インフラ現状図（雨水管）

◎位置図

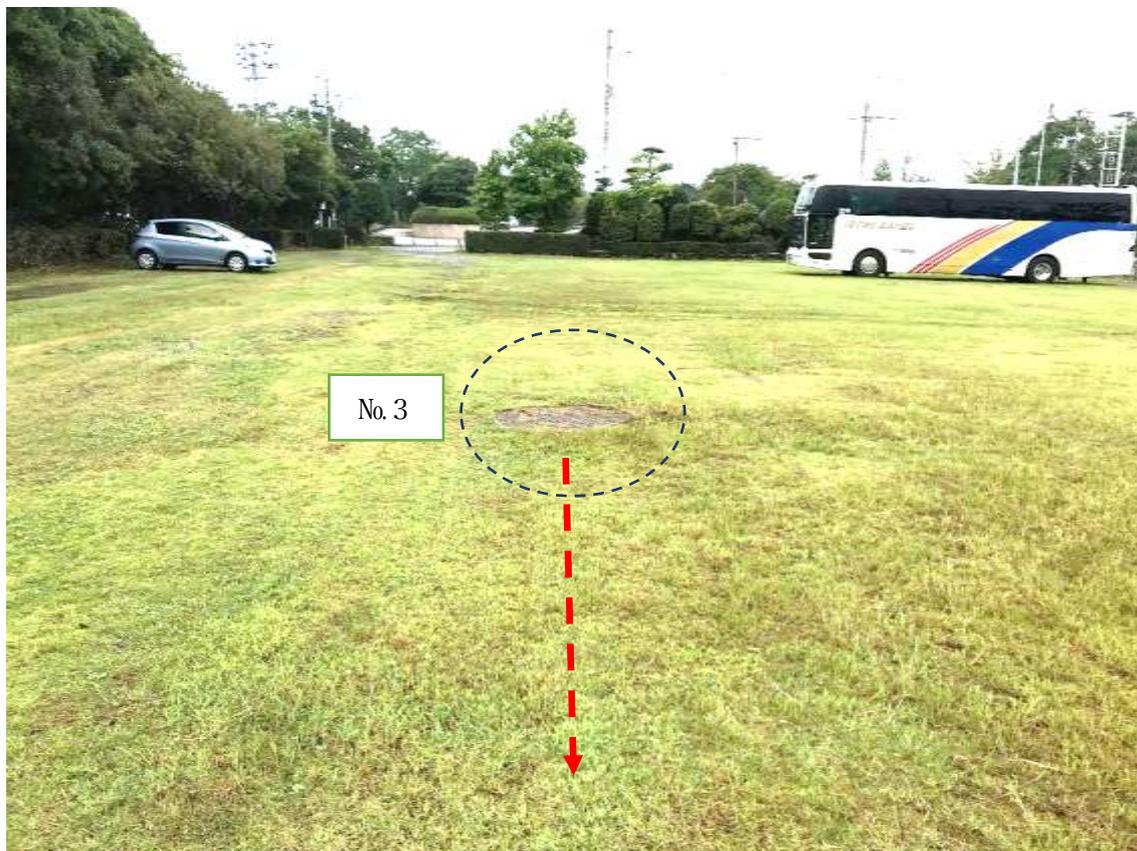


◎拡大図

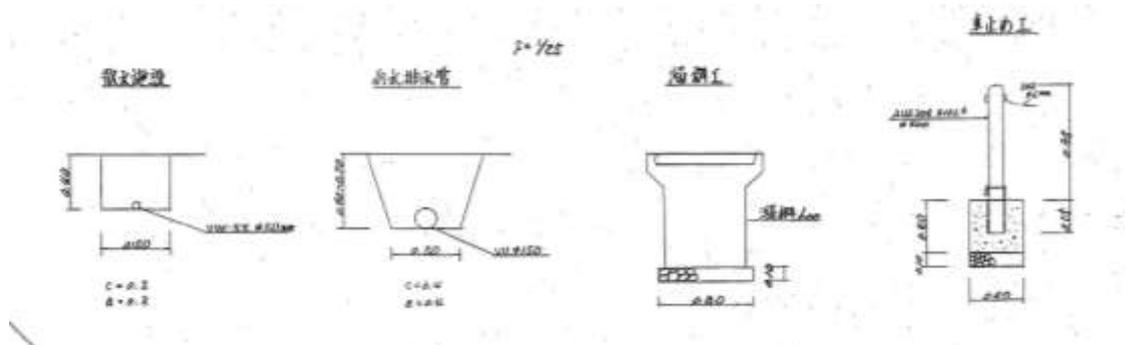


マンホール深さ：No.1＝約 115 c m、No.3＝約 95 c m ※教育総務課調査

現場写真



排水施設等



渦井川へ



【現地調査】 R4. 9. 8

ひうちの埋め立て後、埋設管（雨水排水）を入れていた模様。図面なし（下水道工務課が以前に探したがなかった）

平成9年当時に実施した「緩衝緑地整備工事」の図面では、既に雨水管は埋設されており、緩衝緑地広場部分を現在の形に整備した内容であった。都市整備課の現地調査の結果、No.3が起点となり、No.2、No.1に流下し、最終的には渦井川に放流されているものと考えられる。